

平成 14 年度 SGST 第 3 回研究会 議事録

日時 : 平成 14 年 8 月 22 日(木) 15:50~18:00

場所 : 中部大学技術文化専門学校 6F ホール

講師 : 山口 邦彦氏 (神戸製鋼所 都市環境エンジニアリングカンパニー構造技術部)
村田 清満氏 (鉄道総合技術研究所 鋼・複合構造研究室長)

出席者: 安藤(瀧上), 飯田(名高速), 佐藤(中日本 C), 小川(名古屋道路エンジニア), 小澤(日構技術センター), 小澤(日本車輛), 中田(佐藤鉄構), 河尻(NKK), 櫛田(帝国建設コンサル), 坂井田(帝国建設コンサル), 小澤(建設技術研究所), 塩見(中部大), 清水(信大), 杉浦(日本構研情報), 鷲見(八千代エンジ), 本橋(八千代エンジ), 田中(日本車輛), 田中(日本電子計算), 田中(中部復建), 忠(豊田高専), 恩田(瀧上), 前川(金沢大), 宮下(日本電子計算), 山田(トピー工業), 吉田(川田工業), 以上 25 名 (敬称略)

1. 定期研究会

講演 「熱プレストレス工法による橋梁構造の耐久性向上提案」

山口 邦彦氏 (神戸製鋼所 都市環境エンジニアリングカンパニー構造技術部)

従来, 疲労き裂などの損傷箇所を補修する場合に, 添接板を用いる方法があるが, より効果的な補修方法とするためには, き裂箇所にプレストレスを導入することが考えられる. この方法として, 熱プレストレス工法の紹介があった. これは, 添接板などの補強部材を予熱して補修箇所に取り付けることで, 冷却後に補強部材が収縮して補修箇所側に圧縮力を導入できるという原理に基づくものである. 被補強部材との温度差を 60° 程度にすることで, 鋼部材で約 120kN/mm² 程度の応力が導入できる.

また, この方法は, 疲労損傷の補修のみならず, 桁連結や, 複合構造物への適用などへの適用が考えられる.

講演 「鉄道の複合構造に関する研究開発事例」

村田 清満氏 (鉄道総合技術研究所 鋼・複合構造研究室長)

鉄道建設公団における最近の研究開発として, 各設計標準に関するものについての簡単な説明と現在研究中である複合構造物に関するもの説明があった. 中でも, 波形ウェブを鉄道橋に適用するため, その鋼とコンクリート間の接合構造に着目した大型疲労試験についての詳細な説明と紹介があった.

2. 懇親会が行われた.

以上//

平成 14 年度第 3 回 SGST 幹事会 議事録

日時 : 平成 14 年 8 月 22 日(木) 14:00~15:30

場所 : 中部大学技術文化専門学校 6F 会議室

出席者 : 塩見(中部大), 小澤(日本車輛), 田中(日本車輛), 清水(信大), 前川(金沢大), 忠(豊田高専), 杉浦(構研情報), 安藤(瀧上), 中川(瀧上), 山田(トピー), 10 名(敬称略)

幹事会議事内容

1)25 周年記念行事について

- ・委員 10 名よりアンケートに対する返答の紹介, 検討を行った。
- ・テーマは「土木構造物と環境」
- ・午前中に講演 2 テーマ (1h/件), 午後からパネルディスカッション (2~2.5h)
- ・コーディネーターは宇佐美理事

講演者の候補は, 加藤氏(環境・文明研究所所長), 三木教授(東工大)で, 開催予定日の都合と合わせて代表より打診する。*ただし, 宇佐美理事より秋山先生(日大)へ既に打診がなされ, 内諾されている場合, 秋山先生にお願いする。

- ・パネラーは 4~5 名程度, 候補者は 伊藤先生, 西野先生, 土木学会でリスクマネジメント委員をされている方(探して打診), 松井先生, 佐々木先生で, 順次打診していくこととする。
- ・場所は名古屋工業試験場(六番町), 詳細な日時は講演者の予定に合わせることにする。

2)H15 運営体制について

- ・次年度代表の候補を事口先生(大同工大)とし, 塩見代表より調整を行う。
- ・幹事長候補は安藤幹事(瀧上)とし, 事務局を瀧上工業とすることを含め, 社内調整を行う。

3)次回研究会

- ・清水研究会担当幹事
講演予定者: 金子氏(横河工事)

4)その他

HP 内容について: 参加各社はホームページアドレスを事務局へ連絡する。
KABSE 関係: HP へ報告書目次を掲載,

以上//